

加古川流域委員会 第8回 資料
河川整備内容について

平成21年3月25日

国土交通省近畿地方整備局
姫路河川国道事務所

1

— 目 次 —

1. 河道内樹木について
2. 堤防整備について

2

1.河道内樹木について

治水上支障となる樹木群について

①河道内に樹木が繁茂した場合、洪水の流下阻害となる



②治水上支障となる樹木群は伐採する



③治水上支障とならないように順応的に管理する



H16.10洪水時の樹木群
(26k付近)

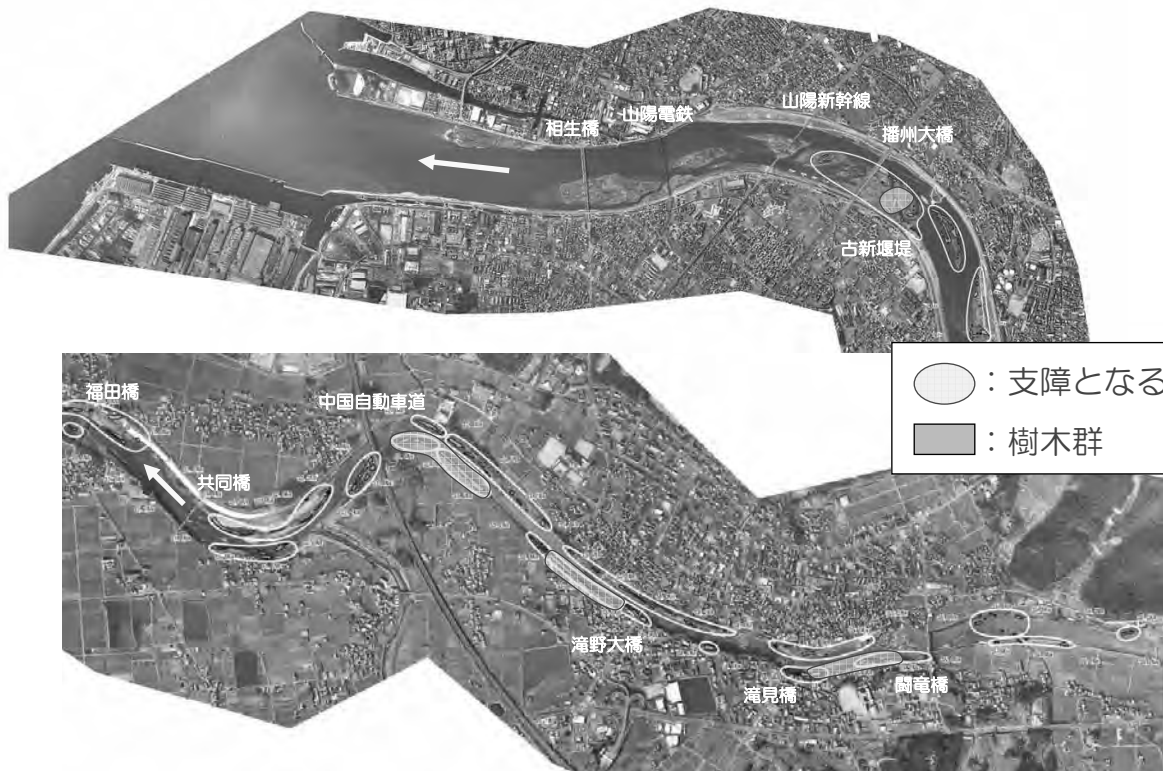


治水上支障となる樹木群
(古新堰堤下流)

1.河道内樹木について

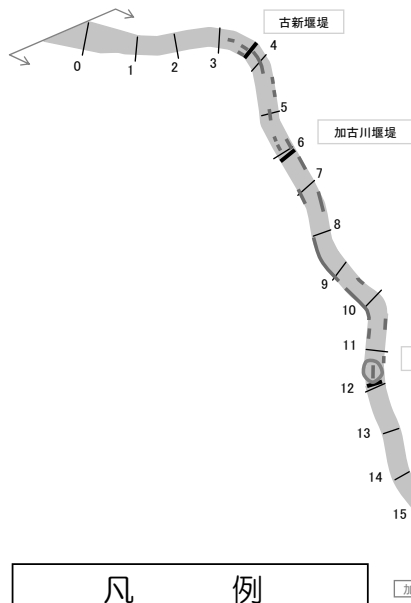
治水上支障となる樹木群について

※伐採エリアはあくまでも予定であり、実際の施工箇所と異なる可能性がある



1.河道内樹木について

輪伐エリアについて



- ・ 輪伐サイクル：12年
- ・ 管理樹木面積：約323,000m²
輪伐面積：約27,000m²/年
- ・ 生物への影響に配慮した、分散したブロックでの輪伐を実施

※輪伐面積はあくまでもイメージです

凡 例	
—	： 樹木群
○	： 1年あたりの輪伐面積

1.河道内樹木について

※伐採エリアはあくまでも予定であり、実際の施工箇所と異なる可能性がある

輪伐方法について

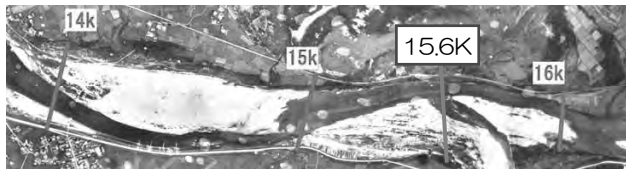
- ・ 隣接する樹木群が生物の生息に適した状態となるまで伐採しない
- ・ 行動範囲が狭い生物にも配慮して輪伐箇所を設定する



1.河道内樹木について

河川営力を活用した河道管理

昭和22年10月



昭和61年03月



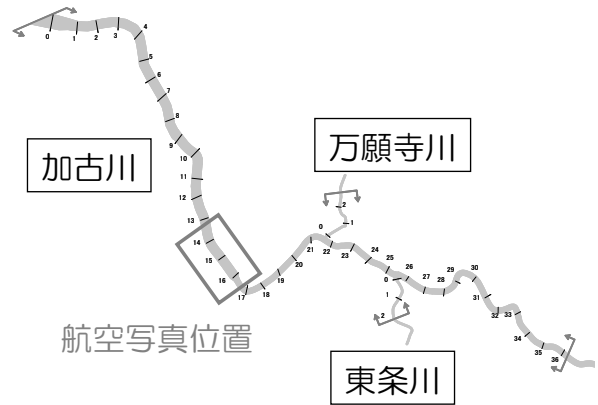
平成12年10月



河道状況の変遷

加古川15.6k：砂州→砂州

○航空写真位置図



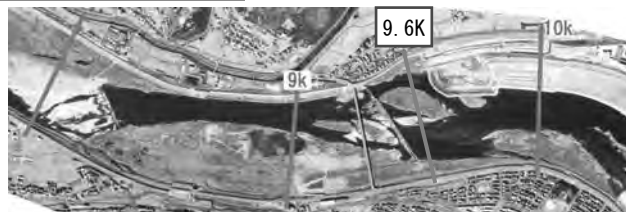
1.河道内樹木について

河川営力を活用した河道管理

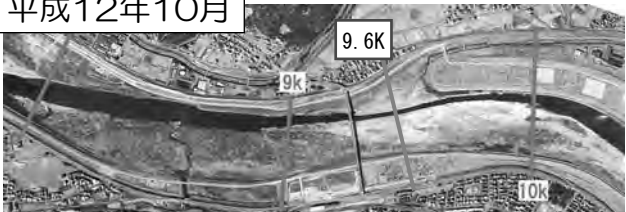
昭和22年10月



昭和61年03月



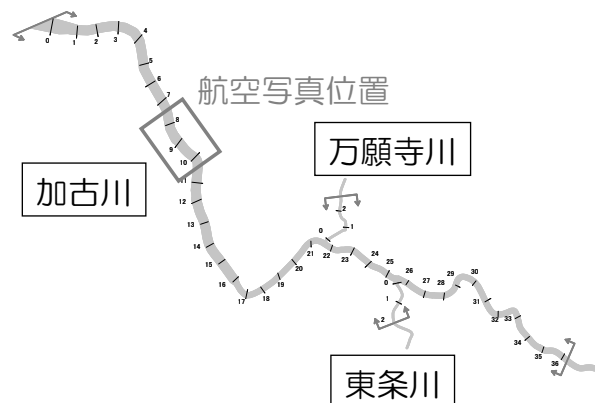
平成12年10月



河道状況の変遷

加古川9.6k：砂州→草地

○航空写真位置図

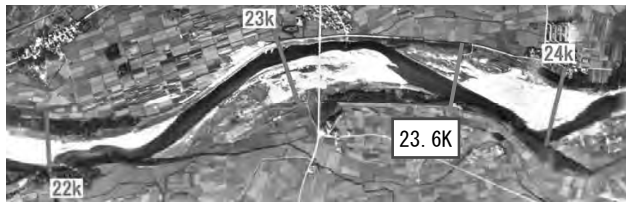


1.河道内樹木について

河川営力を活用した河道管理

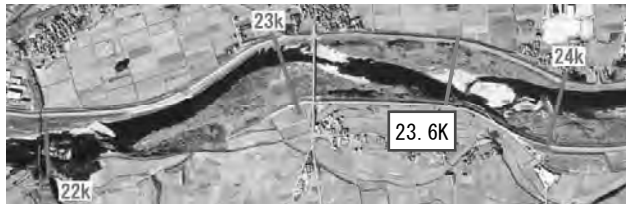
河道状況の変遷

昭和22年10月



加古川23.6k：砂州→樹林

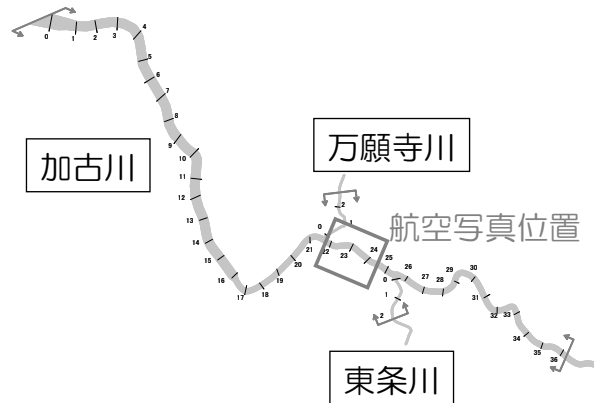
昭和61年03月



平成12年10月



○航空写真位置図



1.河道内樹木について

河川営力を活用した河道管理

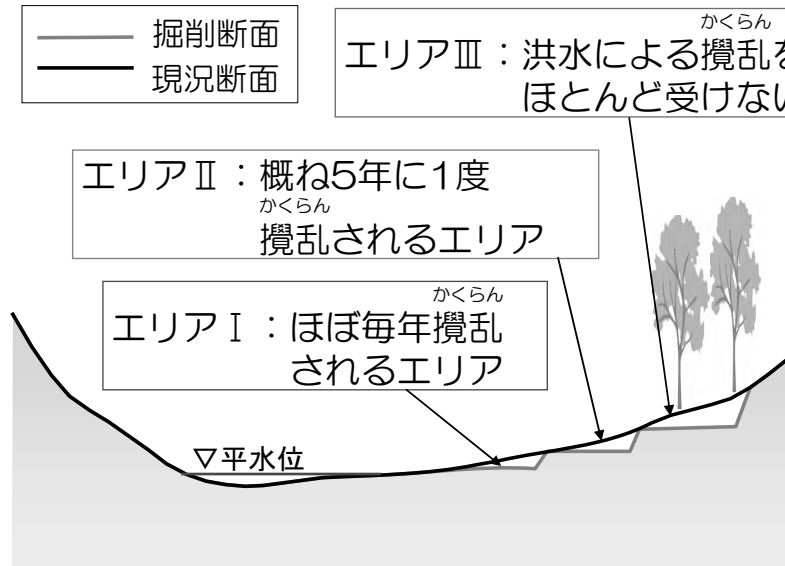
○河川の営力を活用し、メンテナンス負荷の小さい河道管理を目指す

—— 掘削断面
—— 現況断面

エリアⅢ：洪水による攪乱をほとんど受けないエリア

エリアⅡ：概ね5年に1度
かくらん
攪乱されるエリア

エリアⅠ：ほぼ毎年攪乱されるエリア



試験地のイメージ

1.河道内樹木について

地域の方々と協働で実施する樹木管理事例の紹介

- ・ 伐採した樹木を地域の方々に無償で提供
- ・ 地域で活動されている団体等と協働で伐採している事例もある



芦田川の事例



千曲川の事例

1.河道内樹木について

地域の方々と協働で実施する樹木管理について

○加古川における伐採木利用の可能性

- ・ 河川工事に利用
- ・ キノコ類の栽培に利用
- ・ チップ化して燃料に利用
- ・ 薪に利用



キノコ類の栽培イメージ

- ・ 加古川と関わりのある方々と共に利用方法を検討する

上流区間の河道幅の現状について



- ・ 闘竜灘より下流区間は川幅が狭く、上流区間は川幅が広い

2.堤防整備について

滝野地区

※堤防整備が必要な箇所はあくまでもイメージであり、実際の施工箇所とは異なる



具体的な対策の考え方

- ・ 川沿いに家屋が連担している地区では町づくりと一体となった整備を検討する